

全国まなべ会会報

編集と発行 全国まなべ会広報部 事務所

〒763-0053 香川県丸亀市金倉町1544-1
TEL & FAX 0877(89)9530

第40回大会の開催に向けて



全国まなべ会
会長 真鍋光廣

と存じます。

昨年の会報にも書きましたが、猖獗を極めるコロナの大流行の前にひっそりと影を潜めていたインフルエンザですが、インフルエンザの最流行時とされる12月下旬から1月中旬の感染者数を全国5,000カ所の定点観測で見ますと、3年前には35万人であったものが、2年前、1年前はそれぞれわずかに277人、198人となっています。実に例年の1/1500に過ぎません。この冬はインフルエンザも少し勢いを取り戻してなかにはコロナとインフルエンザに同時に感染すると言う現象も報道されています。これもコロナの毒気が少し薄まってインフルエンザに場所を譲っているとも考えられます。

また、昨年12月についてゼロコロナ政策に終止符を打った中国では、コロナの大爆発が起こり、6億から10億人の感染者となり、いくつかの省では感染者が人口の9割にもなっているそうですが、新型コロナウイルスの掉尾を飾る花火の総打ち上げのようなものと希望的に観測しています。

そんなこんなで我が国ではこの春からコロナがインフルエンザ並みの危険度の5類に格下げされるとのことで、私達もようやく普通の日常に戻れそうです。

こうして永い足止めで待望久しい第40回大会が開催に向けて進められることになりました。青葉の季節に陽光輝く瀬戸内皆様とお目にかかって久かつを叙したいものと楽しみにしています。

皆様にはくれぐれもお身体を労られるようお祈りするとともに、第40回の記念の大会で大勢の皆様とお目にかかれることを心待ちにしつつ、ご挨拶とさせていただきます。

第40回全国まなべ会



岡山まなべ会
会長 真鍋 隆

続くコロナ禍において、体調を崩された方もいらしたのではないでしょうか。新緑のみぎり近況のお見舞いを申し上げます。

令和元年の尾道での素晴らしい全国大会で会旗を引き継ぎ、翌令和2年開催を準備しておりましたが、ご存知の通り、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、延期をせざるを得ない状況となりました。令和3年、4年も同様に延期となり、やっとな今令和5年5月に、コロナウイルス感染症2019も季節性インフルエンザと同じ5類へと変更されることになり、開催を決定させていただきました。第四十回全国大会は、わたしども岡山地区の担当により笠岡市の笠岡グランドホテルを会場に次ページのとおりの開催することになりました。

岡山地区での大会は、今回で八回目となりますが、ここ笠岡での全国大会は三回目の大会となります。前回の平成二十五年に実施されました笠岡大会は、第三期の千人碑完成による開眼供養を催したものです。それ以来で、十年目の開催となりますが、今回は第四期の千人碑の開眼供養も併せて行います。特に今回刻名された方は、ご家族並びに縁者の方もお誘いして是非ご参加ください。



真鍋島中学校

今回笠岡市で開催される全国大会は大変重要な情報発信ができる機会と考えています。ここに同族の皆様方が声かけあつて相集い、交流と親睦を図ることで「絆」を一層強めて参りたいと願っております。是非この大会に参加くださいますようご案内申し上げます。

笠岡大会のご案内

族並びに縁者の方もお誘いして是非ご参加ください。

ご存知のように、この瀬戸内一帯は国内外から近年脚光を浴びて参りました。それというのも「瀬戸内国際芸術祭」の舞台となつてゐるためです。

しかし、残念ながら岡山側の笠岡諸島は歴史的にも、文化的にも重要拠点ながら、等閑視されている現状です。笠岡諸島の真鍋島はまなべ姓のルーツと言われる島です。今回、総会翌日の観光で訪れることで、先祖のルーツをたどつてみてはいかがでしょうか。真鍋家住宅のホルトの木の樹齡は約五十年前に牧野富太郎博士次期朝の連ドラの主人公が約二百五十年と推定したと言われています。また、真鍋島の中学校の運動場は瀬戸内少年野球団「ほか、いくつかの映画のロケ地として使用されています。校舎は木造で倒壊の恐れがあるとのことで、今回見ておけば見納めとなるかもしれません。



第40回 全国まなべ会 — 笠岡大会 —

日 時 令和5年5月20日(土)
15:30～

場 所 笠岡グランドホテル

〒714-0086 岡山県笠岡市五番町6-20
電話0865-63-0111, FAX 0865-63-5630
URL: <http://WWW.kasaokagh.co.jp>

大会プログラム 第1日 5月20日(土)

- 13:30～15:30 受 付
14:00～15:30 全国副会長会
15:30～16:30 総 会
16:30～17:10 備中神楽こどもおろち(場合により大人神楽)
17:10～18:30 集合写真, 休憩/ホテル内ミュージアム見学
18:30～21:00 懇 親 会

参加費

- (1) お一人(宿泊の場合)……………19,500円 朝食付
(2) お一人(宿泊の場合/同伴奥方)……………17,500円 朝食付
(3) お一人(宿泊なし日帰りの場合)……………10,000円
(4) 前・後泊される場合のお一人1泊料金1室/1人7,000円 朝食付
(5) 記念写真代(1枚)……………1,500円
(6) 観 光 費……………7,500円 含む昼食代

交 通

JR笠岡駅よりタクシー5分
山陽自動車道笠岡/ICより車で約15分

問合せ先

事務局 0897-36-3652 携帯 090-4331-0287



翌日観光プラン 第2日 5月21日(日)

千人碑開眼供養

行程…ホテル発 ⇒ 笠岡港 ⇒ 沢津浜 ⇒ 五稜郭公園
8:00 8:30 9:20 9:40

⇒ 第4期千人碑開眼供養 ⇒ 沢津浜 ⇒ 真鍋島本浦港
10:00～11:30 11:40 12:00

⇒ 円福寺 ⇒ フリータイム ⇒ 真鍋島港
12:20(昼食) 15:00

⇒ 笠岡港(解散)
16:00

申し込み

申込期日 4月25日(火)着

キャンセル条件/
5月5日までは全額返金,
以降は写真代のみ返金。

アトラクション/
懇親会での出場希望者は問合せ先まで
お申出下さい。

全国まなべ会総会笠岡大会



↑ 第33回全国大会の
こども備中神楽
クライマックスシーン



笠岡地域の観光資産について

今回の第四十回全国大会が開催される笠岡地域の歴史文化遺産については、会報誌の59号で少し紹介していましたが、この地域では新しい動きもありましたので追記したいと思います。



北木島の丁場「石切の溪谷展望台」

笠岡諸島北木島の石材発掘資産は、小豆島、塩飽の本島のそれらと合わせて今回、日本遺産として認定されており、認定の共通事項は、江戸城や大坂城の石垣築造においてこれら島の石材が使用されていたことです。島の掘り出し現場から海の水運を利用して、大名が築造するお城への搬入が容易であったことが要因です。

従ってこの地域には、人材の流入によって経済的な需要も大きくなり、いろんな歴史文化がこの石材搬出領域で形成され、この地に

ストーリー性がある遺産として認められたものでしょう。



笠岡市中心部周辺の空中写真



5月の笠岡バイファーム、見わたす限りのポピー畑

ところで、笠岡港と南前方にある神島の間は、かつては海峡の海であったが、早くから埋め立てられて、今では大きな農耕地になっている。ここは区割りの大きい農場になっていて、花卉栽培や果物栽培など付加価値の高い農業生産形態を取っている。また小型飛行場も付設していて、産物を需要の高い都会へ空輸している。この「笠岡バイファーム」では、季節々々

の花が見られるので人気があり、また時節には果物に付加価値を付けたパフェも販売されており、観光客にも人気がある。



「灯台とスイセンの島」と言われる六島

また真鍋島の西海上には「灯台とスイセンの島」と言われる六島がある。スイセンの花と香りに魅かれて、多くの観光客が初春に島を訪れている。

一方少し西へ足を運ぶと、福山にも多くの歴史遺産があり、見どころのある都市になっている。福山城の改修も終わり、またこの近



福山城

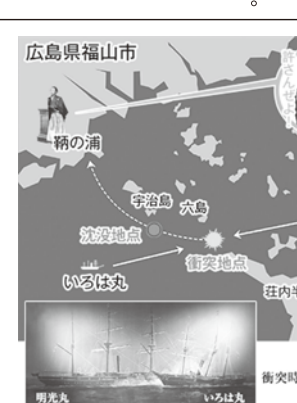


真鍋家住宅とホルトノキ



前回の千人碑開眼供養式

くには歴史資料館もあって、地域の歴史を学習できる場所でもある。南に下れば鞆の浦があり、古い街並を探索でき、またここは歴史上の舞台にもなっている港町として有名です。



丸」と紀州藩の船「明光丸」が六島辺りで衝突して、いろは丸を鞆の浦へ曳航中に沈没している。両者談判の場所になったのがこの鞆の浦である。決着するには日数がかかっているが、坂本龍馬の方が交渉でハタタリを利かせて、外交が一枚上手であったため、勝利して六万両を超す賠償金を獲得している。しかし竜馬は運悪く、その後日数を経ずに京都で暗殺されている。

＊いろは丸事件発生

慶応三年四月二十三日

(1867年5月26日)



円福寺

各地からのお便り

熱海から 思い出の真鍋島

今から五十七年程前の昭和四十年五月上旬二十三才の時初めて一人でまなべ島へと先祖の歴史を知りたくて岡山郷土史研究会の人達と岡山県笠岡市の駅で待合わせして船でまなべ島へ渡りました。島は真っ白なマーガレットに包まれ青い海の只中にありました。真に夢に見た島でした。船着き場の海辺には小さなふぐがおよいでおり、まるで熱帯魚の様でした。まなべ城跡をみたときは、何かとても先祖へのロマンを感じうれしかったのを思い出します。又戦で負けて若様が亡くなり、その後を追ってお姫様が崖から飛び降りなくなつたという三田姫様の墓がありました。

段々畑を登り丸どう様の前で皆で頭を下げました。とても偉い方の宝鏡印塔だと言われ、知りたいたいと思ひました。真鍋増太郎様一家と夜はおいしい魚料理を頂き、礼三さんのお宅にお伺ひした時、おいしいお菓子を頂きましたがお室にお琴がたたくさん並んでいたのが印象的でした。礼三さんの家は代々京極藩のお茶の先生をやっていたとの事です。翌日は八幡神社をお詣りし又五輪塔にも詣り鎌倉時代の作りのお墓だと聞きました。その後一人で四国伊予西条の親せきに行きお話をしました。熱海に帰ってから、その後、真鍋八千代社長と偶然お会いし、まなべ島の話をしてから三回程熱海の別荘でお会いして、最後には伯父越智栄次郎が著わした「予州真鍋氏」を差し上げました。それが縁で、その後十七年経ってから「全国まなべ会」が発足する事になり、再び真鍋島に渡る事になりました。四国や兵庫の遠い方々が二十名程とお会いし親しくお話が出来ました。今は会えなくなつてしまつた方々、その中でも私と一番親しかった当麻美代子さんとは、いつもまなべ会で一緒にいろいろ話をしました。この方が藤治会長を支えていたからこそ「まなべ会」が続けてこられたと思います。

徳島の五郎会長や修さん等、いつもまなべ会を引っ張つて来られた方々がいらつしやつたからこそ、四十回も続けられたと思います。今は全国に散つていつたまなべ姓の方々とこれからも親しく、先祖の話をしながら行きたいと思っています。今年の四十回まなべ会を「まなべしま」で出来る事を嬉しく思います。

岡山まなべ会の真鍋直己さんから真鍋島の秘密外伝と題した第四弾目の冊子が送られてきた。西行の第三巻目である。第一章は桜であり、第二章は月で、第三章は恋となつており、第四章は永久の時となつてゐる。今の時節は冬であるが、春がそこまでやつて来ていて植物が芽吹いているまさにその刻みのときである。

岡山まなべ会から

西行もまた春を待ち望んでいたであろう。第四章の中の歌一句をお知らせしたい。

早春
さわらび
なほざりに やき捨てし野の
さわらびは
折る人なくて ほどろとなる

わらび…シダの一種、若菜、根茎は食用、わらびもちなど
ほどろ…まだら、ほどけてふやける。
縄がほどける

寒い時期に野焼きをして、雑草を一掃したあとに生え出した野の早蕨は、折る人もなくてほどろとなる。月や花でもなく、草だから勅撰集や他の和歌集に載せられることもない。蕨は通常四月の終わ

ころから五月の連休あたり
に川の土手や湿地で一斉に生え出す。

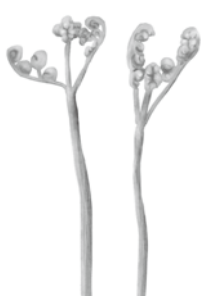
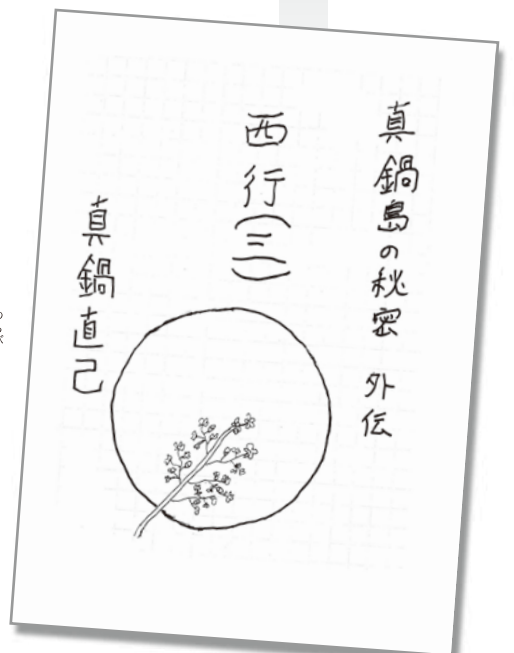
時期の旬もの故、蕨の調理の仕方一つ紹介したい。

- ①わらび大束をスーパーマーケットや市場などで買う。
- ②根本2cm位切つて捨て、鍋の中へ入れる。上から重曹(炭酸水素ナトリウム)小袋四個分を破つて振りかける(薬局で購入)。
- ③やかんで沸かした沸騰したお湯100度Cを上から入れて浸す。
- ④そのまま一晩浸しておく。
- ⑤次の日、水を替えてよく洗う。あく、苦味が抜ける。短ざくに切る。

これから、
・蕨の塩つべ和え…塩つべ100g(一袋)を蕨短ざくにまぶし、上から生姜汁少々。それだけでよい。

・わらびの卵とじ…だし汁で卵とじ(みりん、酒、醤油)

・野菜の煮つけ、野菜炒め、スパゲティなどに入れる。酢の物、ちらし寿司、炊き込みご飯などに仕える。





元国連工業開発機関の皆様とランチ会

2022年年末、ヨーロッパへ行く予定があり全国まなべ会会報誌で、オーストリアお便りで憧れの真鍋友子様に國六様のご紹介でお会いできる機会をいただきました。

オーストリアのウィーンでは、真鍋友子様に初孫様が誕生された中、大変ご親切にして頂き、心温まる親睦の交流が出来ました。



オーストリア、ウィーン訪問

友子様が長年お勤めでありました、国連工業開発機関（UNIDO）元職員の皆様とのお食事会にも出席させて頂きました。オーストラリア、スイス、スエーデン、ドイツ、オーストリアと様々な国籍の皆様と大変楽しく貴重な時間を一緒に過ごさせて頂きました。真鍋友子様は長年この組織で、世界的にご活躍され、同族の一人として大変誇らしく思いました。



王宮宝物館

年越しには、ご主人様のクラウス様にウィーン高台からの素晴らしい景色花火にもお連れ頂きました。また、ご

ハプスブルク家のお墓参りにも伺えました
カプツィーナ納骨堂

シェーンブルグ宮殿



ホーフブルグ宮殿

自宅で美味しいご馳走、素敵な年越しを迎えさせて頂き大変貴重な時間を過ごす事ができました。

オーストリアに長年暮らされておられる友子様ですが、やはり同族の馴染み深さからか初めてお会いした感じがなく、前から存じ上げている感覚がありました。貴重な体験ができた事に先祖様、全国まなべ会のご縁に大変感謝しております。

東京 真鍋 美紀

また、まなべ会会報誌で、オーストリアお便りで憧れの真鍋友子様に國六様のご紹介でお会いできる機会をいただきました。

オーストリアのウィーンでは、真鍋友子様に初孫様が誕生された中、大変ご親切にして頂き、心温まる親睦の交流が出来ました。



つた後には、事務局長の真鍋隆資氏の講演があった。題目は「ヘリコプター搭乗記」であった。隆資氏は幾分前に小型機のヘリーの操縦ライセンスを取得されており、今回大阪湾を回遊飛行された時の夕映え映像を撮られていた。今回会場に用意されたスクリーン上にその時の様子がきめ細やかに記録されていて、大変興味を持って観賞することが出来た。

なお、ヘリコプターの種類やエンジンの個数による機体の安全性などについても詳しい説明があった。

こうした演出はまなべ会の総会では初めてであり、



第44回の阿波まなべ会総会が徳島県東みよし町の割烹「味匠 藤本」で開催された。この藤本はJR四国の「四国まんなか観光列車」の観光利用者向けの仕出し弁当を担当している業者である。地元食材を手く加工し使っていて、味付けも良く定評を得ている。

また今回の総会議事が終わ

阿波まなべ会から

京の雅と夕陽残映

「平家物語」の最終章クライマックスシーンは、後白河法皇が建礼門院徳子を慰めるために、大原行幸を試みたところである。門院のおられる大原寂光院は、高野川の流に沿って八瀬、大原の里に入り奥まったところにある。大変寂しく人も来ない洛北の土地である。さて源平合戦最後の戦いは下関の壇ノ浦で幕を閉じることになる。

しかし女人にとつては、特に建礼門院徳子においては源氏の武士によって助けられるが、その後の生活環境は京都へ送られ激変することになる。伝手により大原の寂光院で前の天皇である安德や一族を弔って信仰一心の余生を送ることになる。

その後時が大きく流れ、後白河法皇が建礼門院を訪れ再会するシーンが「平家物語」の最終章のクライマックス場面となっている。「平家物語灌頂きの巻」には「文治二年の春の頃、法王は建礼門院の大原の閑居のお住まいをご覧あそばせようと思いましたが、二月の弥生の月であり、嵐風もあり、また余寒もあり……かくて春過ぎ夏立って北祭りが終わってから、法皇は夜を込めて小原の奥へ御幸されることになる。法皇は忍びの御幸なれども、頃は四月二十日過ぎの事であり、夏草も生い茂り草葉の先をかき分けての行程であった。法皇には初めての道行きであり、心寂しい気持であった。

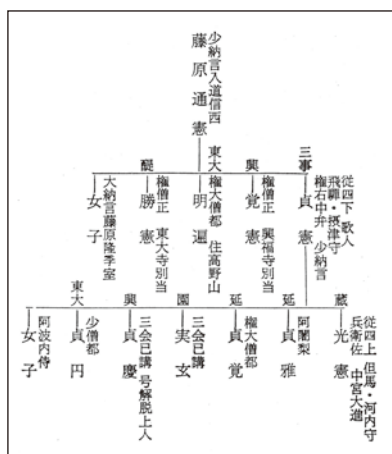
やがて西の山の麓に一棟のお堂があった。この侘しく見えられたお堂が寂光院である。庭前の池や木立などが古びかしい造りのものになっていたが、何かしら由緒ありげな趣のある所であった。柵木のかずらや青つづらが生い茂っているばかりで、訪ねてくる人も稀なところである。

後白河法皇は、「誰かいなか、誰かいなか」と召されたが、ご返事申すものもない。ずいぶん経ってから、古い衰えた尼が一人参った。「女院は何処においでになったのだ」と、仰せられたところ「この上の山へ、花摘みにいらつしやいました」と申す。「そんな事に奉仕する人もないのだから。いくら世を捨てた御身と言いながら、まことにいたわしい事だ」と言われると、この尼が申すには、「誤解柔然を保つて得られた前世からのご果報が無くなつてしまわれたので、今こつこつ目にあつておいでになるのです。肉身を捨てる仏道修行に、どうして御身を惜しまれる事がございましょう……」

この尼のありさまを御覧になると、身体には絹・布の区別も見えないものを結び集めて着ていた。あんな様子でもこんなことを申すのは不思議だと思われて、「いったいお前はどのような者だ」と言われたところ、この尼はさめざめと泣いて、しばらくはご返事もしない。しばらくたつて涙をおさえて申すに

は、「こんな事を申すにつけてもはばかり多く思われますが、故少納言入道信西の娘で阿波の内侍と申したものでございます。母は紀伊の二位です。以前はあんなに深くご寵愛下さいましたのに、お見忘れなさつていらつしやるにつけても、わが身の衰えた程度も思い知らされて、今更なんともしようのない気持ちでございます」と言つて袖を顔に押し当てて、我慢できずに泣く様子、まことに目も当てられない。法皇も「それではお前は阿波の内侍だな。今となつて見忘れたのだ」と、ただ夢とばかり思われる」と言つて、御涙を抑えることができない。お供の公卿・殿上人も、「ふしぎな尼だと思つていたら、そんなのか、それならもつともだ」とめいめい話あつておられた。

そもそも壇ノ浦の源平最終決戦において、女官たちは戦闘員でないため助けられた。安德天皇の母である徳子(建礼門院)も助けられたのであるが、京都へ送られ東山の長樂寺で落飾された。しばらくここで住まっていたが、その後人目を避けて更に山深い洛北大原の



寂光院へ入られた。遁世したのが三十一歳のころであり、それから二十八年間生きられて、建保元年(1213)十二月、五十九歳でこの大原の幽居で没したとされる。院の側近くで仕えて看取りしていたのは、大納言の典侍の局(平重衡の妻)と阿波ノ内侍という心許せる身内の女性であった。

ここで少し、真鍋と関連する歴史事項を拾つて記してみたい。

まず最初に建礼門院の入水をお救いしたのは、摂津の渡辺水軍の渡辺呢であると言われている。あの有名な四天王の一人と言われた渡辺綱を先祖とする人物である。この渡辺水軍の子孫たちの歴史変遷は大きいものがあつたが、有名なのは、毛利元就の毛利家跡目相続時での騒動に絡むものであつた。毛利先代の父「毛利弘元」は側室の子である元綱に目を掛けて後継ぎにしようとしていた。元綱は武将として優れており、合戦でも実績を上げていたためである。この元綱の謀反計画に「坂広秀」と「渡辺勝」が加担していたことであつた。

先代当主の死後に家中騒動が起り、坂・渡辺組は毛利元就に抹殺されたのである。当時の渡辺家の当主だった渡辺勝の父が不在の時に事件は起こつたのであるが、渡辺勝の父もまた抹殺の対象者であり、一緒に親戚へ連れていた孫は中間に連れられて山中に逃げ込み、備後の山内家を頼つて甲山城へ落ちていった。その後瀬戸内海を渡り、

讃岐の高瀬比地大の縁故ある旧地へ逃れてきたのである。その後、渡辺家はこの地で継承されるのであるが、この系統の一部には男子が途絶えて文政九年(1826)に真鍋家がこの後を継ぐことになる。

次に平家物語に登場する「阿波ノ内侍」も真鍋に関係が有るのである。この阿波内侍信子は、阿波の美馬市にある「願勝寺」中興の祖と言われている。またこの寺の第十三代目の僧「忍海」は、一の谷合戦で真鍋五郎と同時に討死にした真鍋祐宗の子「宗千代」と言われ、讃岐から阿波へ入つた人である。阿波内侍が彼を阿波の願勝寺へ連れて行つた人と言われている。藤原信西(清盛の側近)の妻は紀伊二位であり、阿波内侍はその娘である(孫娘という説もある)。この紀伊二位は阿波の出身と言われており、後白河法皇の乳母をしていた女性である。

國六 記

(参考資料)

・日本歴史 日本歴史学会編

1973年/11月号(第306号)

・平家物語 下巻灌頂の巻

角川文庫

・阿波まなべ会会報第59号

・同 第73号

・讃岐まなべ会会報第17号

・全国まなべ会会報第40号

・ふるさと豊中物語 第34章

・比地大城築城記：森田 泉

・毛利元就 森本 繁

・毛利軍記 古川 薫

・源平争乱期の女性 集英社

(人物日本の女性史 第3巻)

・渡辺家古文書

コロナ問題から見えてくるもの

凡そ三年を迎えるコロナ感染問題は終着点を未だ見出せずにいる。人類共通の重要問題でもあるが、国内では第八波の感染が襲ってきた。当初から多数回に亘る感染波の到来が想定されていたにもかかわらず、官民共々能天気と言ふべきか、これまで感染防止の方策を充分学習してこなかったからか、同じ繰り返しを行っている。

そもそもこの感染症という公衆衛生問題について、十年あたり前から新型コロナウイルス発生を見識者は想定していたのである。しかしながら最近では為政者を取り巻く医療界の心構えが不足していたことによるのであろう。その証拠に、国内各所にある「地区保健所」の組織機構をこれまで国(政府)は縮小してきた実績があることから、この国は甚だ危機管理意識の脆弱な国家体制の国であることが証明されたのである。政治、経済、社会等の活動において一番重要な行動概念は前述の「リスク管理」である。そして事態発生想定能力と事態発生後の処理能力の確保である。

これまでの歴史を振り返ってみると、歴史上の先人たちは曲がりなりにも感染症に遭遇してきたのである。しかし、現今の為政者たちは歴史実績に学ばず、しかも国土や国民の生命を護ろうとする気概が希薄ともいえるのである。政府、官庁の業務執行者の間ではエリ

ト意識が強く、上から目線の人達が多いのである。最近の法務大臣の舌禍問題や元歌手による国会委員会で自己のレコードPR問題、法規違反の行動などの事例を見るにつけ、この国の為政者は甚だ規範意識の低い人物が闊歩しているものと呆れるばかりである。このような緊急事態の状況下で何を考えていたのであろうか。

さてコロナ感染の対応時期において、直接の対応機関である厚生労働省においては実態はどうであるか、甚だ心配するのである。厚生労働省では、そもそも感染症対策は健康局、そして医療体制を所管するのは医政局である。形式的にはプロジェクト体制を確立できていても、従来管轄部署が別個でやって来た通例からして、適格な柔軟対応が出来ないのが官庁組織である。大所高所から指令する人材と肝力の有る人材がいなければ連携機能しないのである。また、技術官と事務職との連携の確立など困難な状況が発生することからして、統括的、俯瞰的見地から事業推進する有能人材が必要であろう。ところで、国内初感染が確認された2020年1月、省庁トップの命令で「新型コロナウイルス対策推進本部」が出来たにはできたが如何せん、従来の平時での「感染症」と「医療体制」を別々に所管していた弊害は、重大局面に際して

根詰まりを起こしたのである。膨大な患者の発生に直面して、今まで縮小してきた保健所の機能障害が発生したのである。即ち大量の濁流が流れてきた場合には、勢いを削ぐため流れの道を多く分岐する機能作業が必要である。しかし出来なかったのである。高速道から降りてきた自動車の流れを分散するため、多くの出口を採っている



武田信玄

るのである。戦国大名の「武田信玄」が採用している「信玄堤」もこの類である。

官庁や大企業においては、往々にして特有のセクト主義が発生し機能不全に陥りがちなのである。事務方は時間が来れば、定時退社しがちであるが、現場の技術部門では時間外勤務が多くなりがちである。特に国家公務員などの世界では、この現象が特徴的に観られていて、昨今では厚生労働省や農林水産省の公務員で中途退職者が多くなっている現状を政治家たちはどう考えているのだろうか。人事異動や、職種間のアンバランスについて配置換えなど工夫すべきであろう。しかしながら、政府人事局の管理権限強化により、従来と比べてより柔軟性が無くなり、ま

た、トップ機関に付度するようになって、受け身姿勢の業務対応が顕著になって来たのではなからうか。政治家が不勉強で誠実な官僚に無理を強いるため当該官僚は面白くなからう。

そもそも政府と国家公務員は連携して業務推進せねばならないのであるが、今日においては政治家が利益誘導やブローカー的業務に関心が有るものなのか、解らないところがあるのがある。しかも技術職や事務方第一線現場において過労労働気味になっている。特にこのところのコロナ感染問題を機縁として厚生労働省関係では逼迫した状況になっていて、感染はこの十月から第八波が襲来してきているようである。この機においても、治療薬の在庫手配が出来ていないものか、最近、治療機関の末端では薬が不足して治療も出来ない環境にあるとも言われている。患者数拡大の都度、医療崩壊になると大騒ぎになるのは何処に原因があるのか、不思議なものである。このコロナ感染問題に遭遇して考えるには、日本という国は官庁組織のセクト主義が蔓延していて、前に向かって進まない組織が自然と醸成されているものと考えてるのである。事態が発生して初めて対応するという受動的な習性傾向にあるのではなからうか。従って政策推進基盤は甚だ脆弱になってゆくのである。

コロナ感染問題の不利対応から観てみて、現場主義者と関係機関の連携統合を踏まえ、現状熟知もしようとしないうる烏合の集団になっているのではなからうか。これに対して江戸末期に焦点を当てて考察してみると、この当時に活躍していた老中首座の阿部正弘の懐刀だった関藤藤陰の①「歴史的考察力」、②「将来の展望力」、③「政策立案能力」や、また江戸期最後の筆頭老中だった板倉勝静の参謀であった山田方谷は危機管理意識と大局観への留意、すなわち、「事の内に囚われず、事の外にも気を配ることに充分留意する」、そして「至誠と惻怛」を信条とする哲学を保有していたのである。そのことは、常日頃から危機管理意識を持つて事に処する信念を持つて施政執行に当たっていたことを意味していた。この両人の真摯さや凄さに感嘆するのである。



山田方谷



関藤藤陰

この名参謀たちは至誠と惻怛の気概を持って事に対処していたのである。責任感を持って、他者には慈愛を持って接し、しかも日常の生活は率先して質素な生活を心がけていたのである。この至誠態度を裏付けた素地には、兩人とも若いときに両親と死に別れ、その後厳しい環境下で生育したことによるものであった。両参謀はこの逆境下でありながら、良き師を得て勉学に励み、庶民目線を大切にしてい、何時も至誠を貫き、慈愛を持って施政執行するという信念が出来あがっていたのである。

さて今回のコロナ問題に対処する関係機関の業務推進については、甚だ連携の脆弱さを感じてならないのである。この一面を観察してみても、その他の政治行政実績などの各指標でも先進国では低水準にあるのを発見するのである。例えば日本の研究力は2000年代半ば以降著しく低下し、研究力の指標の一つである引用回数が上位10%に入る「トップ10パーセント論文数」は先進国でも低下しているのである。また科学技術振興機構に設置される「大学ファンド」が設立されたが、これとても経済発展を促進する即効性を求めたものであるが、既存の有力研究機関（有力大学）を前提としたものであり、地方にある大学との格差を今後一層進めるのではなからうか。これまでも文部科学省は各大学の通常経費の節減を図り、毎年1パーセントずつ縮小させてきた。今では累

計で10%以上減少しているであろう。また実績主義を図るため研究予算獲得のための競争を課すことになっているのである。研究費確保のための煩雑な事務申請処理などで事務多忙になっているのが現状である。

ともかくも「選択と集中」の下で目先の稼げる分野に研究が集中し、研究力を下支えする基礎研究がやせ細ったことが日本の研究力の低下を招いたとも言われている。

今回実利的、即効性を期待するための大きな予算策定を提供することになっているが、社会全体研究機関の英知を集めて大局的、俯瞰的に考案したものか、甚だ心配である。これまでも規模の大きい大学に予算配分してきたため、地方大学との間で大きな格差が有るのに、なお一層の格差を生み出すのではなからうか。これまでもボスの研究者の権威主義的配分が在るようだが、今回からは広く万民の英知を結集して、将来を見据えたものを創りだして欲しいものである。確固たる信念と哲学をもって、情知のある正当性ある選択を決定してほしいものである。

現今のコロナ問題の解決のためには、各関係機関のセクト主義を排除し現状を知る専門家の見解を重用して、適格な処方を採用すべきである。また柔軟な見方も重要であり、スピード感をもって方向性を示し、国民から信頼を得るよう努めてもらいたいと願うものである。

香川不器男

自然からの逆襲

勤めを辞めてから早くも二十年以上の月日を数えることになった。今年で何回目かの周年にあたるウサギ年かもしれないが、ぴよんぴよんと軽く飛んで人生を刻んできたものである。

一昨年には、伊予新宮のご出身である真鍋淑郎先生がノーベル物理学賞を受賞されたのであるが、先生の地道で根気のいる研究は、地球民全体に対して警鐘を鳴らしたものとわたし達は理解し、反省をせねばならないと考えるのである。



真鍋淑郎先生

確か二十年以上になるのであるが、現役時代に同じ職場の者

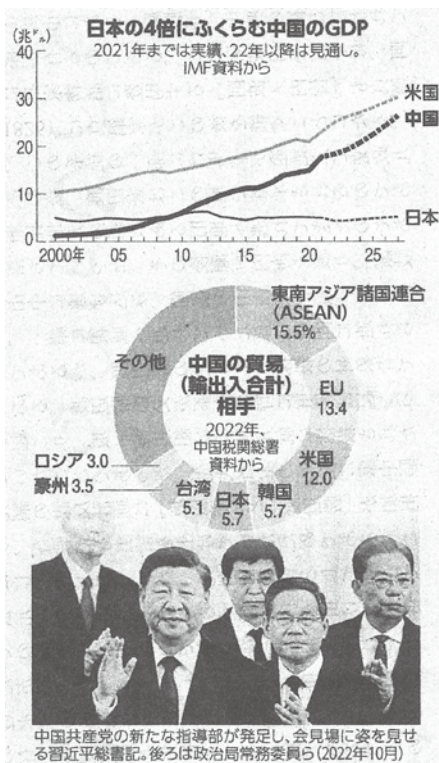
から、この頃は讃岐山脈の山手あたりの畑でイノシシが出没してきて芋や豆類が食べられ、全然収穫が駄目であると歎いていたのを思い出した。現在では、高松市や丸亀市の街なかにおいても野生のイノシシが見られるようになってしまし大変な状況である。しかもわたした達の心のふる里「真鍋島」においてもイノシシが闊歩しているとのことで、いやはや困ったものである。



を採る西
欧方式の
経済を好
む為政者
の政策に
符合する
ものであ
った。
この二
十数年に
亘る金融
経済政策
の不都合
により先

この問題は人口減少や高齢化により中山間地域での空き家が増加し、山間部へ人が入り込まなくなつたことである。田舎での生活体系が立ち行かぬことになったことであるが、経済の中核機能が大都市集中に偏っているからでもあり、勢い教育文化機能も付随して拡大することになる。バランスの良い地域経済基盤の育成であればよいのであるが、地方が必然的に衰退する弱肉強食という「新自由主義」

進国においては、日本の立ち位置が弱くなり、先進的投資活動が困難になって来ている。勢い税収入も不足しているため、財政出動するには日本銀行とタッグを組んで国債などの起債に頼ることになる。歳費の見直しをいたくても、高齢化の進展で医療費や介護関連の支出は固定費用として毎年累進している。各国での比較データ指標を見てみても、先進国での順位は低下しており、国内総生産（GDP）、





国民所得水準の数値も停滞している。

經常収支の改善には、税体系の見直しも必要であるが、先ずもって非課税団体の見直しや、国会議員などの歳費節減又は定員の削減などの身を切る改革が必要であろう。また、政党助成金は、党のボスの恣意的配分を許すことになっていくため反ってブラックホールを醸成しているのではなからうか。

民間機関や公的研究機関との連携により対外的な競争力を考慮に入れて、優位的製品や意匠の開発による先駆的イノベーション案件を創造すべきと考えるのである。

ところで国家財政のひつ迫感がありながら財政改革が出来ないのは、官民共々危機感を真剣に持っていないためである。そのため各種データによれば、日本国は先進諸国と比較して劣勢の位置になっている。前述のごとく、特に国民総生産高や成長率など低位に推移している。

国内で立地しないため国内投資は低調になり、日本国内の地方では産業の空洞化が進み、また、国内で生産性向上を凡そ実施しないから技術向上の進展も遅れることになる。雇用環境は悪くなり、賃金上昇も停滞することになる。新しい分野へのイノベーションを図るには小回りの利く環境の創設が大切であるが、大企業や大学などの研究機関での実態は甚だ硬直的であり、大学などでは、旧帝大を中心とした大きい組織に資金配分を恒常的、慣例的に配分しており、地方の大学では大変貧弱な現況にある。今日の少ない予算の中でも、某大学では、政府有力者への付度で短期間により新しく獣医学部を開設している。昨今のコロナ問題や鳥インフルエンザ問題には既設大学の学部機能充実の方が時代の要求に合っていると思うのであるが、政治力の作用が自然の流れを止めているのである。

話は飛躍するが、自然の流れを恣意的に変更することは、政治にかかわらず、産業界での生産活動、また、人間の悪意や過失により自然界を改変して地球の自然や動植物などに大いなるストレスを与えることがある。急な変革・変動は知見しやすいが、時間をかけて現象が顕在化するものは発見が困難でもある。殊に一昨年にはノーベル物地学を受賞された真鍋淑郎博士の研究によると、地球温暖化の原因が二酸化炭素の増加に大きく影響されると指摘しているが、根気

の要る地道な努力の成果と思うのである。

最近問題になっている南太平洋の島国では、海水の浸食により島が水没の危機に瀕している状況もあるのである。これも地球温暖化の影響により、北極海の氷が融解して海水面の上昇によるものである。

この問題は地球上の各地域で起こす人類の悪意による些細な行動の積み重ねが、時と場所にひっそりと顕在化してくるのである。その対象は動物や植物、否、人類の生活環境にも影響を与えるものになる。

そこで考えてみるに、自然環境の悪化は、凡そ人間の作為行為によるものであり、自然を改悪し、また生存する動植物や資源を独占しようとする輩がいれば、自然の環境バランスを崩壊させることになる。例えば森林開発が進めば、密林で生息していた動物たちは、人間の生活圏に入ってくるであろう。これに関しては、今回のコロナ感染問題の元凶はコウモリが保有しているウイルスがその原因ともされている。

また昨年の二月二十五日にロシアがウクライナに対し突然侵攻を開始したのであるが、国際法上でも是認できない暴走である。完全な独立国家に対し戦争を仕掛けたのである。ウクライナ国家の

一部地域にロシア人がいて、彼らの身体・財産や人権が侵されていて、保護を求めているという理由からである。国連の常任理事国である当事者が国連機能を無視して暴走することは自然の摂理に適っていない行為である。

地球上の自然資産は人類だけの占有資産ではないのである。生物全体の共有資産であり、護るべき資産でもある。このウクライナ国の人命や資産は恣意的に消滅させるべきではないのである。この問題に対して国連機関においては現状を何ら解決出来ないでいる。自然の安寧状態を破壊するのは悪である。他者と共生するとか、自然との共生を計り、自然の中や森の中に神がいると考えるアイヌの人達やエキスモの人達の自然観に価値を見出さねばならない。彼らの行動の中に素晴らしい愛の泉があるのを発見するのである。

また日本が産んだ偉人、空海の密教思想に魅せられて、多くの為政者は宗派を超えて高野山に魂を



空海



真鍋島の家屋、屋根の上には熱帯樹のホルトノキが見える

眠らせているのである。核による被害を体験した初めての国民として、自然の規律や人間の持つ尊厳を破壊する人たちに強く抗議をすべきである。自然の摂理を踏み潰す輩に何ら阻止することが出来ない国連機関の機構変革をすべきである。機能停止している国連の舞台において日本人の代表として政府の代表は、自然の摂理と哲学を明確に主張すべきと考える。核による破壊者は人間ではなく、「悪の大王」である。

「自然を汚せば自然からシッペ返しを受ける」のである。今回のコロナ感染問題も人間のなせる大いなる失敗の贈り物とさえ思えるのである。また、独立国家である国を理由もなく、不当に侵略する人や国に対し厳しい懲罰を与える意味において、国連は新しく「不当行為処罰宣言憲章」を作成すべきであると思うのである。

郷土歴史の見残し

真鍋國六



讃岐国丸亀藩の初代藩主 京極高和

は力を蓄積していった。

その分かれ目は何であろうか。六角家は滋賀県琵琶湖の南部を支配していたが、一方、京極家は琵琶湖周辺の北部を支配していた。琵琶湖は水運の要となりうる地域であり、

ここ一帯の物流を支配出来ることが勢力拡大の決め手となっている。物流を支配出来る可能性を確保した京極家は富を蓄積することになる。やがて同族である六角家を凌駕した京極家はこの周辺を支配することになり、本家筋とも言われる六角氏を吸収することになった。

江戸時代の西讃岐を支配していたのは京極家であった。京極家の前は、山崎家が支配していたが、三代目藩主が夭折したため山崎家は五千石で備中成羽へ転封され存続した。その後は、急遽京極高和が移封され江戸末期まで存続したのである。

さて京極家であるが、それまでにはお家断絶の危機もありながら、大名家としてここ丸亀で明治維新まで継続支配することになる。この京極家は歴史の歩みの中で実績を積み重ねていくのであるが、この係累の本家とも言われる六角家は衰退していくが、反対に京極家は

富の蓄積や経済情報の入手に有利に働くからである（地理的に観て大坂の摂津や泉州あたりでの有力国人たちの領地は細くて奥行きのある土地支配となつて



丸亀藩6代藩主 京極高朗

である。

ところで京極家であるが、初代高和の位牌は滋賀の徳源寺には無くて、仁尾の upstream 浦のお寺「七宝山紫雲院極楽寺」に祀られているのであるのが、不思議でならない。他の藩主の位牌は滋賀県の清滝寺「徳源院」にある。そのため何年か前には、仁尾 upstream 浦の寺の檀家衆が制作資金を集め、初代のお位牌と同じ様式仕様のお位牌を作つて滋賀のお寺へ奉納寄贈している。

また丸亀京極家の第六代藩主高朗公の母堂の出自詮索については、これまでに地元誌やまなべ会報誌で言及していたのであるが、関係者と思える方からの情報は入手していないのである。筆者の出身地では、藩主の母堂は仁尾と関りがあつたのはなからうと推察している。しかし丸亀周辺では、いまだ確たる情報が無いのが残念である。ところで丸亀藩や多度津藩の公式記録は不足していると言われている。丸亀藩では公式文書が建物火災により焼失したとも言われて

いて、残存している古文書は、「丸亀市立資料館収蔵資料目録」に記載されているが、この内容を閲覧してみると、藩の政治執行の記録はやはり少ないようである。また、多度津藩の場合には、明治維新後に殿様が東京へ移住した折に移動中の船が転覆するという海難事故に遭遇して、積載物もろとも多度津藩の公文書資料は水没したためと言われている。一方、多度津藩の家老職を務めていた林良斎が書き残した個人的な資料は、日記形式で多くの古文書が奥白方の「林求馬邸」に保存されていた。このうちの一部は地元で解説されているものもあるが、何分資料が多くて現物は香川県立文書館に移され、現在解説作業中である。



多度津藩の家老、林良斎が書き残した資料があつた林求馬邸(多度津町奥白方)



備中松山藩7代藩主 板倉勝静

金管理の乱れた世界でもあるが、しかし山田方谷は賄賂の厳禁を通達し、自分の生活は甚だ質素にして身を律していたのである。自分の家計数字まで情報開示をしていた。また、藩政の収支の借財についても、上方大坂の金融業者に財政関係の実態内容の情報開示をして、

一方近隣の藩では、岡山池田家や土佐山内家などの殿様たちは維新後も東京へ転出しなかったことでこの地区郷土の藩政などの政治社会等の貴重な歴史資料は散逸せずに残されることになった。このため後世のわたしたちには歴史を学習する上で貴重な資料となっている。

これらの公文書情報資料の保全管理は今も昔も大切な業務に変わりはないのである。危機管理意識の強い為政者にあつては、公的記録を残すための役職を公式に組織化して、藩行政の情報を明確に記録し保管されてきた(特に備前池田家の古文書、肥後細川家の古文書は点数規模も大きく、丁寧に整備保管されている。どちらも十萬点以上の膨大な資料で、地元の大蔵に保管されている)。

と、見識と責任感のない一部の為政者にとつては問題意識が甚だ脆弱と言わざるを得ないケースが散見されることである。公文書記載の事実を改ざんしたり、破棄したりして政治問題化している事例がこのところ見られるのである。殊に公文書の改ざんや散逸などの意図的逸失行為は法規違反に該当するものであり、当該者意識について特に問題とすべきものである。官僚機構の人達は国民の利益のために業務勉勵すべきであつて、一部の人達のための利益奉仕者であつてはならないのである。

かつて江戸末期において、備中松山藩には偉大な人物「山田方谷」がいた。藩主の板倉勝静に代わつて藩政全般を取り仕切つていたのである。当時もそうであるが、この藩でもこの時代は賄賂の横行する社会であつた。高位の為政者には賄賂攻勢もあり、また裏金がたまる状況にもあり、世の中は規律の乱れた時代であつた(今も政治資金管理の乱れた世界でもあるが)。

十萬点以上の古文書が見つかった
倉敷市の児島にある野崎家(日本一の塩田王)

相手方から信頼を得るという大変信任の厚い人物であつた。無論、財政関連の記録も明確さを極めるものであつたから、金融業者からは確たる信用を得ていたことが藩の古文書から読み取ることが出来る。

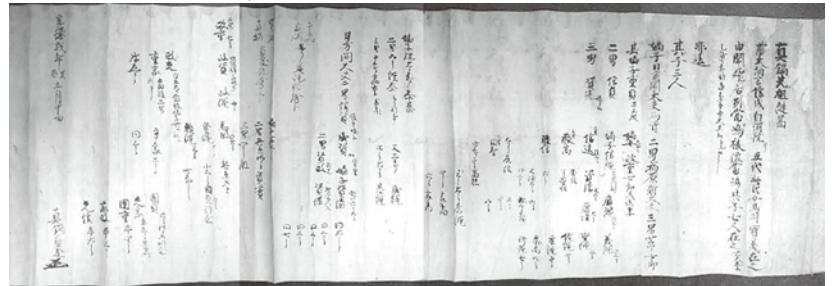
いずれの時代にあつても、公式記録の保管管理は大切な業務事項であり、経緯の判るものでなければならぬ。また記録されている情報は情報開示請求により公開されるものであつてほしい。また監査機能制度も確立されておらねばならない。しかし江戸時代などの近世にあつては、為政者達の意向により記録実績の実態には強弱はあつたと推定される。

また最近では、倉敷市の児島にある野崎家(日本一の塩田王)で十萬点以上の古文書の存在が最近公表され脚光を浴びている。現在近隣の八大学が共同でこの解説作業

に当たつていところである。一方、当会と関わりのある「真鍋島古文書」も歴史研究者のバイブルとして有名であるが(古文書返却の旅：中公新書、瀬戸内の当時の漁業活動の実態を記録するものとして大いに参考となる資料である)。

ところで、その土地の有力者の家には古文書が些かでも残つているのが通例であるが、世代が変わるにつれ古文書の意義を理解できずに廃棄されるケースがある。時代背景やその家の果たした事業実績が有る場合には、歴史的価値の損失になるであろう。文書のみならず、写真であつても俯瞰して貴重な歴史資源遺産と考えられるのであれば、だれか専門の人に質すのがよからうと思うのである。

冒頭で言及した当地大名「京極家」二家の古文書資産の喪失は大変残念であるが、今後の方向性との対比においては大きな意味がある。わたしどもは歴史の事実や意義、そして比較検討、今後の指針方向性確立のため「歴史」実態というものの学習が重要であることを認識して歩んでいきたいと思う。即ち



真鍋島の真鍋総本家が所蔵する「先祖繼圖」

当地の歴史を文明動態的に俯瞰して事象を知り、将来を見据えて方策を考えることは、危機管理の上で重要な行為である。

昨今の激動時代にあつては、要因の複層化で見えにくい状況になつていく。それだからこそ総合的な学習により、事象の実態や本質を見抜く力の蓄積が要求されるのである。また、高度の教養と気概が要求されることでもある。

過去の資料から学び、新しい展望の機に会して適正な方向性を見出す指針になればと願うものであるが、最近のデジタル化の時代に遭遇しても、重要な案件については、やはり正確な検討をするための時間にも必要であり、多面的な情報管理方式も必要であろうと考えるのである。現今の電子化時代でのウィルス攻勢や偽情報の受信も社会問題化しており、確たる把握とその防禦策にも大いなる関心が寄せられるようになっていく。

全国まなべ会会費及び助成金

(入金実績)

※自04.04.01 至05.03.10 中間数値

年度	理事・顧問		評議員		会報助成金		計		経費支出
	件数	金額(5,000)	件数	金額(3,000)	件数	金額(1,000)	件数	合計金額	
平成15	118	590,000	190	570,000	277	277,000	585	1,437,000	1,582,246
平成16	118	590,000	176	528,000	208	208,000	502	1,326,000	1,161,119
平成17	97	485,000	134	402,000	177	177,000	408	1,064,000	1,103,633
平成18	103	515,000	165	495,000	210	210,000	478	1,220,000	1,493,125
平成19	102	510,000	151	453,000	190	190,000	443	1,153,000	1,186,356
平成20	90	450,000	149	447,000	151	151,000	390	1,048,000	1,041,698
平成21	97	485,000	138	414,000	151	151,000	386	1,050,000	993,796
平成22	92	460,000	140	420,000	154	154,000	386	1,034,000	1,006,833
平成23	90	450,000	144	432,000	161	161,000	395	1,043,000	949,723
平成24	83	415,000	131	393,000	150	150,000	364	958,000	921,637
平成25	79	395,000	123	369,000	140	140,000	342	904,000	871,479
平成26	76	380,000	117	351,000	150	150,000	343	881,000	920,009
平成27	67	335,000	111	333,000	135	135,000	313	803,000	886,216
平成28	69	345,000	109	327,000	136	136,000	314	808,000	804,453
平成29	62	310,000	98	294,000	139	139,000	299	743,000	739,772
平成30	63	315,000	91	273,000	119	119,000	273	707,000	801,893
平成31(令1)	54	270,000	88	264,000	109	109,000	251	643,000	617,736
令和2	52	260,000	84	252,000	100	100,000	236	612,000	601,402
令和3	53	265,000	79	237,000	126	126,000	258	626,000	601,929
令和4	49	245,000	67	201,000	81	81,000	※197	527,000	

会員皆様への感謝と併せて
ご支援をお願い申し上げます!!

日本国における出生数はこのところ減少し、昨年の年間出生数は80万人を下回る状況になっている。この現況に鑑み、政府は「異次元の少子化対策」を計ろうとしている。少子化の進展は、予想よりスピードが速く、政策当局では驚きを持って対処の方向にある。

また高齢化問題は、ずいぶん前から予想されていたことですが、少子化問題は、経済環境や社会問題から特に影響される問題であり、特に日本国ではこの30年間国民総生産高はほぼ横這いであり、拡大していかないのである。それらを原因として、給与所得等の水準はこの20年以上上昇していないし、また厳しい環境の中でシングルマザーや独居老人の増加など社会環境の変化が現出している。

さて日本における急速な高齢化現象は、わたし達の組織においても例外ではなく、例年会員の減少となっています。この状況の中にありながらも、会員皆様のご尽力により組織を維持していただいております。誠にありがたく感謝いたしております。

ところで上記のデータは約20年間の「全国まなべ会」の会費納入実績を一覧表にしたものです。これは日本での人口減少と軌を一にしたような傾向であります。このような状況下で「まなべ会」活動の意義について再考し、誇りを持って組織維持を図り、地域貢献のためにもより一層貢献したいものと存じます。なお今後とも一層のご支援ご指導を賜りたいと存じます。最後に改めてまして会員皆様方のご健勝を祈念申し上げます。

編集後記

これまでに八回もの感染の山を迎えたコロナ問題は、現時点において終息に向かっていると思定されるようです。このような状況下ではありますが、やっと待ちに待った全国大会が開催出来るようになりました。

大きなブランクがあったため、会員皆様への開催案内について上手く情報発信できるのか、思案するところもありました。この失われた時間と開催時を上手く連結させることが出来る会報誌編集上の手立ては何かという問題でありました。

今回の会報誌作りについても、「まなべ関係のニュース」は情報入手も些か少ないのでありました。その点を考慮に入れて、編集人の勝手な思いで編成を進めてきたのが現状でありました。今まで我慢してきた諸々の問題点に対して私感情を入れながら多くのものが発露されたようであります。その思いの感情が全体的に見られるのは良くないのですが、そこはご勘弁を頂きご笑覧くださるようお願いいたします。

また、今回寄稿される件数もありなかつたのですが、同族会の会報誌でありますから会員の皆様方、積極的に随想文などお寄せいただければ幸いに存じます。

この笠岡大会は四十周年の節に当たる大会ですのでご参加頂き、大いに語り合って親睦を深めたいと存じます。心待ちにしてお待ちいたしておりますので、それまで健康にご留意くださいますよう祈念申し上げます。会報誌発行の挨拶とさせていただきます。

國六 拝

お悔み情報

全国大会皆勤賞のお二人がお亡くなりになりました。謹んでお悔やみ申し上げますとともに、生前の温かいご支援、ご活躍に対し厚く御礼を申し上げます。



阿波
真鍋 一子 様



神奈川
眞鍋 菊江 様

*全国役員の方がご逝去の折には何卒本部事務局へご一報をお寄せください。